

目指す学校像	「安全・安心・信頼」を基盤に、一人ひとりが輝き、思いやりあふれるあたたかい学校
--------	---

重点目標	1 児童の主体性を育み、個別最適な学びを実現する授業の実施 2 安全・安心な学校に向けた教育環境整備及び教育相談・生徒指導体制の充実 3 コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携・協働の推進、情報発信の充実 4 教職員の指導力の向上と学校業務の改善
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	〈現状〉 ○落ち着いた態度で授業に臨み、課題に対して熱心に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに、全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。  〈課題〉 ○さいたま市学習状況調査の「生活習慣に関する調査」において、「学びに向かう力等」や「主体的対話的で深い学び」、「自尊意識」「将来に関する意識」などの質問事項が、市と比べやや低い傾向にある。	・「主体性」を育む授業の推進  ・「個別最適な学び」の充実	①学びのポイント「じ・し・や・く」を踏まえた授業を展開し、『教師が教える授業』から、『児童が学びを獲得する授業』へと改善する。 ②教育委員会による「学力向上カウンセリング訪問」や指導法に係る研修を要請し、授業力の向上を図る。 ③「学びの指標」を活用し、教員が自らの授業を客観的なデータに基づき検証する。	①さいたま市学習状況調査における「学びに向かう力等」や「主体的対話的で深い学び」等の質問における数値が向上したか。 ②「学力向上カウンセリング」や研修を実施し、授業改善に生かすことができたか。 ③「学びの指標」の1回目と2回目を比較して、数値が向上したか。	①さいたま市学習状況調査における「学びに向かう力」は0.2ポイント減少し、「主体的対話的で深い学び」は0.4ポイント上昇した。 ②10月17日に、さいたま市教育委員会指導主事による「学力向上カウンセリング」を実施し、全教員が参加することで授業改善に生かすことが出来た。 ③「学びの指標」の数値は、「主体的」「探究的」「ICT」「基礎」の4項目において、全て数値を向上させることができた。	A	児童一人ひとりに「真の主体性」を育むためには、『教師が教える授業』から、『児童が学びを獲得する授業』への授業改善が必要となる。教科の特性や学習内容、発達段階を踏まえ、さらに授業研究を深める。実現に向けては、教育委員会の指導や全国の先進的な取組を共有する機会を設けるとともに、「学びの指標」などの客観的なデータを生かしていきたい。  「個別最適な学び」を充実させるため、ICTのさらなる活用等により、児童一人ひとりの状況把握や個に応じた学びの場の設定など工夫をする。また、「協働的な学び」も一体的に捉えた授業改善を行っていきたい。	・教師が教える授業から、児童が学びを獲得する授業へと、主語が変わり、益々授業研究が求められると思う。それぞれの先生の持ち味を發揮しながら、今後どのような授業が展開されるのか楽しみ。 ・ICTの活用については、授業参観を通して、児童がタブレットを使い、学習を進めている姿や、操作の速さを見て感心した。ICTを活用することで、一人ひとりの状況把握ができるため、効果的だと感じた。
2	〈現状〉 ○R5の学校評価(保護者)における「施設・設備の安全管理」における肯定的な回答は、81.9%であった。  〈課題〉 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援する体制を一層充実していく必要がある。 ○近隣への落葉等を考慮し、樹木の剪定や除草作業を定期的に行う必要がある。	・迅速かつ組織的な生徒指導・教育相談体制の充実  ・安全・安心な学校生活のための教育環境の整備	①日々の関りやアンケートなどから、児童が発する小さなサインを見逃すことなく、専門職であるSCやSSWと連携しながら対応する。 ②いじめを生まない風土を醸成するとともに、いじめやトラブルがあった際は迅速かつ組織的に対応する。 ③Sola る一むを閉室し、支援体制を構築する。	①児童の状況を把握し、心配な状況が見られた場合は教職員で情報を共有して組織的に対応することができたか。 ②児童主体の取組を実施し、あたたかな学校づくりを推進するとともに、いじめがあった際には解消に向けて速やかに取り組んだか。 ③Sola る一むの環境や運用の手順を整え、支援体制を構築できたか。	①年3回実施する「心と生活のアンケート」で心配な状況が見られた児童について、情報を共有するシートを新たに作成し、組織的な対応の向上を図った。 ②縦割り活動「ともだちタイム」や、児童会による「ありがとうの木」の取組など、児童主体の取組が充実した。いじめについては迅速に対応し、保護者とも連携して取り組んだ。 ③コンピュータ室にSola ルームを開室した。	A	児童の心の安全のためには、児童同士のあたたかな人間関係を育むとともに、教職員との関わりやアンケート等により、児童が発する小さなサインを見逃すことなく対応することが重要となる。次年度は、毎週木曜日を簡単清掃としてロング昼休みを設定し、児童同士、児童と教職員との関りを充実させていきたい。  施設の老朽化が進む中、安全・安心な教育環境を維持するためには、まずは教職員が高い意識をもって点検を行う必要がある。不具合は、引き続き教育委員会と連携を図っていきたい。	・「ともだちタイム」や「ありがとうの木」のように、具体的に児童も興味をもちやすい取組がよかった。 ・Sola る一むという学校内での居場所づくりは必要である。 ・いじめの認識が保護者に伝わっていないと感じる。保護者へ向けても発信していく必要がある。 ・環境整備について、落ち葉や雑草はすぐに目に入る部分のため、対策対応の継続をしてほしい。
3	〈現状〉 ○学校運営協議会における熟議を通して、学校、家庭、地域が協働しながら児童を育成していく体制が整えられている。 ○R5の学校評価(保護者)「学校は、地域と連携し、子どもたちの安全を守るために適切に取り組んでいるか。」95.4%が肯定的な評価を回答であった。 防犯ボランティア、下子連等の協力が大きい。  〈課題〉 ○学校の様子を発信し、家庭、地域と共に児童の成長を図る体制の一層の充実が必要である。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するための情報発信  ・学校運営協議会による学校と地域の連携・協働の推進	①学校HPに教育活動の様子を掲載する。 ②学校からの情報発信を紙ベースからアプリを活用した電子媒体での配付を行う。	①学校HPの定期的な更新と充実ができたか。 ②紙媒体での配布物を減らし、電子媒体による新たな情報発信を確立できたか。	①学校HP内に、「下落合小学校ブログ」を立ち上げ、児童の活動の様子等をタイムリーに発信することができた。 ②手紙を電子媒体で配付するアプリ「スクリレ」を導入し、迅速かつ確実に保護者へ手紙を配信することができた。	A	家庭・地域と連携して子どもたちの成長を図るためには、まずは学校の取組等について知っていただくことが必要となる。次年度は、4月の土曜日授業公開や2学期中間の授業参観を実施するなどして、積極的に公開していく。	・「下落合小学校ブログ」や「スクリレ」は、学校の様子がわかると保護者も学校への関心が高まるため、よい取組だと思った。 ・児童が地域への参加型に変化してきて、一体感が出てきていると感じた。 ・学校運営協議会に児童が参加して、地域の方と意見交換をするという取組がよかった。
4	〈現状〉 ○授業におけるICTの活用について、学校課題研修で研究を重ね、教員のICT活用スキルが向上している。 ○高学年の教科担任制の実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができ、授業の質が向上している。  〈課題〉 ○多様な教育的ニーズに対応する指導力が求められる。 ○時間外在校等時間は減少傾向にあるが、業務の負担感や多忙感が教職員に見られる。	・学習指導と生徒指導・教育相談・特別支援教育を一体に捉えた指導力の向上  ・学校業務の改善と子ども向き合う時間の確保	①昨年度までの研修を土台とし、新たなテーマで学校課題研究を推進する。 ②講師を招聘した研修を実施し、指導力の向上を図る。 ③低・中・高学年ブロックにおいて、それぞれのマネジメントによる研究を深め、教員同士が学び合う新しい研修を実施する。	①研究1年目としての体制を整えることができたか。 ②講師を招聘した研修を実施することができたか。 ③3ブロックによる授業研究会を実施し、各ブロックの研究を共有することができたか。	①学習指導と生徒指導・教育相談・特別支援教育を一体と捉えた新たなテーマについて共通理解を図り、研究を推進することができた。 ②講師を招聘した研修を、4回実施することができた。 ③3ブロックによる研究授業は全教員が参観し、研究協議会も実施した。ブロック内での授業参観も積極的に実施することができた。	A	今年度の研修で明らかになった『真の主体性』を育むための授業について、更なる研究を深めていく。今年度同様、低・中・高学年ブロックを研究組織とし、ブロック内では各教員の得意分野や興味関心に基づく内容で進め、教員も「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学びとする。	・3ブロックに分かれて授業研究を進める方法は、よいやり方だと思った。 ・ICTの活用は便利な様で大変だと思っているが、具体的に対応していることが知れてよかった。 ・担任外の教員が学年に入るチーム担任制は、チームで取り組むことができ、担任の負担が軽減されるので、よい取組だと感じた。また、担任外の先生にも見てもらえることで、多くの先生に見てもらえるため、有難いと感じている。
			①ICTによる事務の効率化を図る。校務におけるクラウドの活用。 ②自己申告ノ残業デーの取組を行い、教員個々の状況に対応する。 ③一人で業務を抱え込まないよう、担任外教員をブロック副担任にするなどし、チームで取り組む体制を促進する。	①ICTによる業務改善を推進できたか。 ②教職員の時間外等在校時間を月45時間以内にできたか。 ③担任以外の教員やスクールアシスタントと協力して業務を遂行することができたか。	①校務用端末における「Teams」を活用して迅速な情報共有を図ったり、「Forms」を活用したアンケートを実施したりすることで、業務改善をすることができた。 ②平均で月4.5時間以内とすることができた。 ③担任外の教員に学年を割り振り、朝の出席確認や学年事務等にチームで取り組むことができた。	A	教員の勤務時間は8時20分から16時50分だが、児童下校後に使える時間は40分程度であり、その中で会議や保護者への連絡、教材研究を行うことは厳しい状況にある。チームで取り組む体制の推進や意識の向上、ICTの活用等により、業務改善に取り組んでいきたい。	

学校運営協議会による評価	実施日 令和7年2月13日
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	

